

(JAM・ビクター高齢者・退職者の会)

- 日時 : 2003. 10. 4(土) 14:00~15:00
■場所 : 日本ビクター労働組合本部 勤労会館3F会議室

書記:西郷治男

1. 開会 [14:00]

- はじめに、司会の高石副会長より開会の挨拶が行われた後、あらかじめ事務局で準備した総会役員が提案された。出席者の賛同を得て、議長に土屋 真氏、書記に西郷治男が選出され、議長が登壇した。

2. 総会成立

- 議長より、自己紹介と書記の任命が行われ、書記が役員席に着いた。
- 続いて、今総会の成立が宣言された。(出席予定:32名中、役員含め出席28名)

3. 会長挨拶 [14:10]

- 菅沼会長より、昨年の発足からこれまでの活動経過を中心に挨拶があった。

<要旨>

◆JVCシニアクラブは準備委員会を経て昨年10月に発足し、労組役員OBの口コミ活動により、当時の入会者62名のうち20名が出席して設立総会が開かれた。この1年間、1人でも多くの会員を増やすべく入会活動を最重点に取り組んできたが、今日までに122名の入会届が集まり、本日ここに役員を含めて32名(予定者含む)の出席をもとに、第2回総会を開くことになった。

◆会員は倍増したとはいえ、これは今年4月に関東地区1都6県に在住の寿会会員約1500名にダイレクトメール(入会案内)を出し、そのうち60名に入会賛同をいただいた結果であり、全体から見ればまだまだ理解をいただけてない状況にある。また役員を中心として、この1年間十分な活動が出来てなかったとの反省もあり、今年も引き続き、一層の会員拡大を図っていかねばならない。

◆定年退職された皆さんは寿会(約2000名)に入会し、日常活動としてサークル活動や趣味を生かした活動に参画し、それぞれ生きがいを感じている人も多い。一方、JAMシニアクラブは2年前、ビクター労組の上部組織JAMで高齢者・退職者を中心に結成され、ビクターは昨年、JVCシニアクラブがスタートした。

◆いずれも、会社を辞めたあと孤立しかねない状況の中で、交流の場を提供したり、お互いの情報交換・情報提供などを行うことによって、生きがいを持って心身共に健康な生活を送っていくことは、寿会もシニアクラブも共通のテーマである。

◆しかし、急速に進む少子・高齢化社会にあって、年金問題や老人医療、介護保険など高齢者を取り巻く問題は山積している。今後は福祉の改善、制度政策要求などについて高齢者自らが行動を起こすと共に、JVCシニアクラブもJAMシニアクラブと一体となって活動していかなければならない。その意味から、寿会とシニアクラブの趣旨は異なるものである。この点をしっかりと認識し、まだ入会の賛同を得られていない多くの方々に対して、積極的に理解を求めていく必要がある。

◆高齢者に関する直近テーマでは、毎日のように取り上げられる年金問題があり、現役世代の保険料と受給者の給付額の関係など国家的問題であるが、我々からすれば年金額の減額、税制面の負担増など反対の声を上げていかなければならない。

◆これからも日常活動を充実させていくためには、JAM中央・地方の活動を通じて、ビクター労組の物心両面にわたる援助がなければ活動出来ない。今後も現会員数からすれば、引き続き支援をお願いしなければならない状況にある。そして役員を中心に、皆さんにもご協力いただきながら、入会活動を第一に推進していく。

◆来年の第3回総会には50名を越える会員が参加することを誓うと共に、本日の総会があるべき姿に向けた懇談の機会となるよう、よろしく願いたい。

4. 来賓挨拶 [14:20]

●日本ビクター労組より、宮本委員長が出席され、祝辞を含めた挨拶があった。

<要旨>

◆ビクター労組現役の組合員はピーク時には14000名を超えていたが、今は半減し、7000名を割っている状況にある。私は委員長として4年目になるが、菅沼さん時代に出来なかったこと、つまり今年の4月、横須賀市議会議員として井関功滋を当選させ(定員45名中、34位)、念願の組織内議員を出すことが出来た。OBの皆さんに絶大な協力を得て票集めが出来たことを、この場を借りてお礼申し上げる。

◆これからの労組活動は、単に企業内労使交渉では解決できないテーマもあり、社会改革活動にも積極的に取り組んでいく。組合員が激減する中で、財政的にはピンチを迎えており、執行委員を減らすなど労組もリストラが必要となってくる。そうした厳しい情勢ではあるが、シニアクラブと共に活動を進めていくことも大切であり、先ほど物心両面でとの話があったが、今後もシニアクラブを財政的に支援していく。また事務局の日常的なフォロー、会員募集のお手伝いも行っていきたい。

◆また昨年、JAM会長に元労連会長の小出さんを送り出したが、JAMでは副会長の津田弥太郎さんが参議院選に出馬することになった。この支援活動についてはOBの皆さんにもご協力をお願いすることになるが、よろしく願いたい。

5. 報告 [14:30]

●大西事務局長より、(1)(2)一括で報告があった。<議案書2ページ「平成15年

度活動報告」、3 ページ「平成 15 年度会計収支報告」参照＞

(1) 平成 15 年度活動報告

<概要>

- ◆役員会(幹事会)は 4 回開催。活動計画に基づき、入会促進とJAM傷害共済への加入活動を推進した。特に寿会会員にはダイレクトメールで入会勧誘、傷害共済加入を呼びかけた結果、当会入会が 120 名、傷害共済加入が 23 名となった。
- ◆JAM地方シニアクラブへの登録(入会)は、神奈川で結成と同時に 29 名を登録。茨城(今年 5/10 結成)では 13 名を登録した。平成 16 年度には群馬、東京、千葉でも各地方JAMシニアクラブへ登録を予定している。各地方JAMへの登録基準は当該地区の会員 10 名程度を基準とする。
- ◆その他の活動は、JAM神奈川での行事参加(介護老人福祉施設見学、ハイキング参加)および横須賀市議会議員選挙への応援を行った。

～拍手で承認

(2) 平成 15 年度会計収支決算報告

<概要>

- ◆この1年間で会員は 62 名から 122 名と倍増したが、絶対数が少ないため会費収入は不十分であり、大半を労組本部からの助成費で運営しているのが実態である。また寿会のダイレクトメール費は、傷害共済の勧誘という点でJAM本部から郵送料の一部助成があり、それを考慮すると実質約 57 万円の支出である。
- ◆主たる支出は、総会運営費および加入パンフ作成費・郵送料などである。活動のポイントは、①寿会とシニアクラブの違いの明確化 ②高齢者・退職者への情報提供 ③地方組織への拡大 の3点で、これらを中心に支出運営した。
- ◆結果として、平成 15 年度の収支実績は、収入合計 46 万 3 千円、支出合計 44 万 5 千円となり、次年度繰越金は 1 万 8 千円となった。(予算は 62 万円を計画)

～拍手で承認

(3) 平成 15 年度会計監査報告

- 会計監査の橋本さんより、9/20 に会計監査(天野、橋本)でH14. 10/5～H15. 7/31 までの財務諸表、7/31 現在残高など厳正に審査の結果、会計処理はすべて適正であったと報告された。<議案書 4 ページ「会計監査報告書」参照>

～拍手で承認

6. 議案 [14:40]

(1) 平成 16 年度活動方針に関する件

- 大西事務局長より、(1)(2)一括で提案。 <議案書 5～6 ページ「平成 16 年度活動計画」、7 ページ「平成 16 年度会計収支予算」参照>

<概要>

◆この1年間「会員入会を最重点」という方針で活動してきたが、現在の会員数は122名と不十分である。2年目も「入会促進を最重点」に活動強化するが、シニアクラブの目的・趣旨を退職者や今後退職する方に積極的にアピールする必要がある。また「JAM傷害共済」も優位性などPR不足もあり、加入者は目標を下回っている。

◆高齢者・退職者を取り巻く諸情勢は厳しく、年金問題の動向や税制・医療・介護など無関心ではいられない。一方、日本ビクターの経営状況は構造改革や人員削減などで危機は克服したものの、経営環境は厳しさが続いている。

◆ビクター労組も組合員数の減少から今後の財政運営にも影響が懸念される。JVCシニアクラブとしては労組本部の物心両面にわたる援助は必要としながらも、厳しい現状を認識し、将来の自立した活動を目指して努力して行かねばならない。

<具体的な活動(骨子)>

① 会員拡大を最重点に、JAM傷害共済加入を積極的に勧誘。

現役役員にも協力を要請(これから退職する人を「出口でつかむ」こと)

② 地方支部を結成(神奈川・東京・千葉・茨城・群馬)。地方JAMへの登録促進

③ JVCシニアクラブ中央として独自の行事を企画(講演会・施設見学会など)

④ 役員の補充(東京・千葉・群馬に幹事を設置)

⑤ 「JVCシニアクラブだより」の充実。情報提供を中心に年4回程度発行

⑥ JAMや団体と連携し国政・地方行政への請願・要請・署名活動など積極参加

⑦ 参院選にJAM副会長「津田やたろう」氏、衆院選神奈川5区に「田中けいしゅう」氏が立候補予定。JAM中央・神奈川、労組本部の要請により対応・支援

※質疑:別記

～拍手で承認

(2)平成16年度会計収支予算に関する件

◆収入～会費は90名で18万円を見込み、労組本部より助成費50万円を含め、収入合計約70万円を計上。

◆支出～総会・幹事会など27万円、加入パンフ作成・地方JAM参加・支部活動補助など27万円、通信費・その他で16万円により、支出合計70万円を計上。

～拍手で承認

<質疑>～議案(1)(2)に関して

◆橘川氏～「会費収入は90名分しか計上されていないが、実際122名ではないか」

→回答「現実には取りこぼしもあり、それを考慮して実質90名とした」

◆栗田氏～「活動のポイントとして、看板になるようなインパクトあるPRが必要ではないか。また60歳を過ぎてどんなことをやればいいのか、辞めた人は何を知りたいのかなど、今後の活動に何を取り入れていくのかを明確にすべき」

→回答「ビクターとして寿会もあるが、シニアクラブにも同様のサークル活動があってもいいのでは?と考えている。まず形作りを行って具体的な活動を進めたい。

また地方JAMの活動を案内し、各支部でも主体的な活動を充実させていきたい」

◆橘川氏～「70 才を過ぎても有効な保険はJAMにはないのか。そういった要望に対して、アリコジャパンは親切に対応してくれているが…」

→回答 「JAMは傷害共済が中心であり、ミサワリゾートの施設利用などJAMシニアクラブのオリジナルメニューが特長である。現在、傷害保険加入者はビクターは 31 名のみで、今後一層の加入促進に皆さんのご理解ご協力をお願いしたい」

(3)JVCシニアクラブ役員(幹事)補充に関する件

●百瀬副会長より提案。 <議案書 8 ページ参照(追記:東京都/菊地武洋氏)>

◆新たに役員(幹事)として、千葉県/田代 周氏、群馬県/長谷川光雄氏、東京都/菊地武洋氏の 3 名が補充された。 ～拍手で承認

7. 新役員挨拶

●新幹事として就任された 3 名が紹介された。(群馬県/長谷川光雄氏は欠席) 千葉県/田代 周氏、東京都/菊池武洋氏から挨拶があった。(内容略)

8. 閉会 [14:55]

●議長降壇、書記解任のあと、司会より第 2 回総会が無事終了したお礼と今後の会員拡大への協力が要請された。その後、午後 3 時より講演会(下記)が行われ、引き続き午後 4 時 15 分から懇親会に移り、参加者全員の近況報告や懇談などで午後 5 時半過ぎに全てが終了した。

※講演の詳細内容は、当日講師から配布された別紙「学習会資料」参照。

■講演会 テーマ「介護保険の現状と課題・民生委員の視点から」

～JAM神奈川シニアクラブ事務局長 新田尊士氏より

<項目のみ>

1. 老いについて考える

(1)肉体的な衰えに備えて (2)経済的な蓄え (3)死に対する備え

※もう一つ大切なことは？

2. 超高齢社会に向かっの高齢者福祉の方向(高負担・低福祉への転換)

(1)年金 (2)医療 (3)介護

3. 介護保険の基本を知ってますか

(1)知ってますか？介護保険と医療保険の本質的相違

(2)知ってますか？介護保険などに関わる事業者(所)の違い

4. 措置制度から個人選択の介護保険制度になって変わったことは

5. 民生委員として困っていること、考えていること

